

## 実践報告 札幌市立平岸西小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「札幌市アイヌ文化交流センター『サッポロピリカコタン』」と「財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構『アイヌ文化活動アドバイザー』」の活用について

- 実際にアイヌの人たちと交流し、自然とともに生きてきたアイヌ民族の精神文化や、日本には様々な民族が暮らしていることなどを学ぶ中で、現代社会が抱える問題に目を向けたり、差別のない人間関係を育んでいこうとしたりする力を育てる。

### (2) 実践の内容

【実践①】総合的な学習の時間・社会科「『サッポロピリカコタン』での活動」

○ねらい

- ・ アイヌの人たちの文化や歴史にふれ、交流・体験を通して関心を高める。

○活動内容

事前学習として、「わたしたちの札幌」と萱野茂さんの「アイヌ ネノアン アイヌ」などを読み、質問したいこと、調べたいことなどをまとめた上で、当日の活動に参加した。ピリカコタンでは、①講話、歌舞・楽器等の公演、②アイヌ古式舞踊体験、③昔のアイヌの子ども遊び体験、④屋内展示物の解説、⑤屋外展示自由見学、⑥質問コーナーなどを体験した。

後日、ピリカコタンでお世話になった皆さんに手紙を書き、今回の活動を通して学んだことを伝えた。子どもたちは、体験活動を通して、アイヌ民族の歴史・文化への関心を高めることができた。



- アイヌのことは、4年生になってから知りました。だからアイヌネノアンナイヌを読むまではわかりませんでした。ピリカコタンに行くと、本で読んだこと以外にたくさんわかりました。一番びっくりしたのは、サケの皮で作ったくつです。サケの皮でくつを作るなんて想像もしませんでした。アイヌの人は知恵がよく働くなと思いました。
- 宝物置き場は、村長のチセにしかないこと、神の通り道があり、そこにすわってはいけないことがわかりました。
- アイヌの人は知恵がすごくあるんだなと思いました。例えば、ラオマップは、魚が前にしか進まないということを知らないとできないので、すごいと思いました。
- 私はアイヌ民族のことはわからなかったけれど、ピリカコタンの皆さんにいろいろな踊りや、弓矢や輪投げなどの遊びを教えてもらって、おもしろいなと思いました。
- とても楽しかったです。アイヌの人々のくらしや遊びなど、いろいろなことがわかってよかったです。また、質問に答えていただいて、アイヌの人たちの気持ちがいやだったことがわかりました。
- トンコリがあんなにもすてきな音色になるなんて、とてもおどろきました。昔のアイヌの人と、昔の日本人の遊ぶことが似ていたのもおどろきました。
- ピリカコタンに着いて、まず、アイヌの人がおどってくれました。後から、私たちも着物を着て踊りました。弓、輪投げ、おおなわなどもやって、すごく楽しかったです。
- 私は、木の皮でできた着物だと知って、びっくりしました。文様は、どうしてこんな形なのかなと思いました。私は、また来たときに、もっといろいろなことを知りたいと思います。

## 【実践②】総合的な学習の時間・道徳「アイヌ文様の刺繍家 小川早苗さん から学ぶ」

### ○ねらい

アイヌの方との交流を通して、アイヌ民族の文化や歴史、現在の暮らし、差別について知る中で、アイヌ民族の問題を自分事として考え、人権意識を高める。

### ○活動内容

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の「アイヌ文化活動アドバイザー」の派遣を申請し、アイヌ文様の刺繍家 小川早苗さんにゲストティーチャーをお願いした。当日は、小川さんにアイヌの文化やアイヌ文様の切り絵の作り方を教えていただいた。

小川さんは、「アイヌは、自然や生活のあらゆるものに神がやどると考え、普段の生活用具にも魔除けとしておまじないの文様を施した」と教えてくださった。子どもたちは、実際にアイヌ文様を作ることで、自然への深い畏敬と感謝の念を持ちながら暮らしてきたアイヌの人々の文化をより深く知ることができた。また、これまでのアイヌ民族の学習で疑問に思ったことを率直に質問し、小川さんはその一つ一つに丁寧に答えてくださった。

小川さんとの交流の後、「アイヌ民族:歴史と現在～未来を共に生きるために～」(アイヌ文化振興・研究推進機構)を読み、アイヌ民族の歴史・文化について学ぶことで、小川さんのお話の理解を深めることができた。



- 私はアイヌ文様の切り絵を作ったのは初めてでした。小川さんに教えてもらったら、きれいなものができたので、うれしいです！自分もアイヌもんようを作ってみたいです。
- アイヌ民族の小川早苗さんと会えて本当によかったです。自分は今度アイヌ民族の人と会ったら、仲良くしたいです。そして、冬休みの自由研究は、できればアイヌのことを調べたいです。
- 今日は、アイヌのことをたくさん教えてくれてありがとうございました。それに思い出したくないいやなことまで教えてくれて本当にありがとうございました。
- 私が早苗さんと会ってわかったことは、アイヌの人は植物をものすごく大切にしていることです。私だったらすぐとってしまったり、木を折ってしまったかもしれません。私はこれから、アイヌの人も外国の人も差別しないようにしたいです。今日は来てくれてイヤイライケレ！
- ほくは、いじめや差別はぜったいやってはいけないものだとなりました。ほくはアイヌの方々に会えたら、あいさつをしたいです。小川さんに切り絵を見せてもらって、ほくにはできないくらいうまかったです。来てくださって、イヤイライケレ！

### (3) 研究のまとめ

#### ①成果

- ・ 子どもたちは、アイヌ文化やアイヌの人たちと直接触れ合うことで、アイヌ民族の文化の素晴らしさを知るとともに、「日本に、アイヌ語という独自の言語をもつ民族が先住していた」「アイヌ民族は、今もアットゥシ織りの着物を着て、チセで暮らしているわけではない」ことなどを理解することができた。また、アイヌの人たちがこれまでどんな思いを抱いて暮らしてきたかを知ることで、人権の大切さや、身の回りの差別・いじめについて考えることができた。さらに、アイヌ民族の人権回復のために、多くの人が現在も努力を続けているということを知ることができた。
- ・ 教室では、自分の親戚や身の回りにもアイヌ民族の人がいて、自分たちの文化を守ろうと努力していることを率直に語り合うことができた。

#### ②課題

- ・ 今後は、「アイヌの人たちの人権が守られる社会は、自分たちも含めみんなが尊重される社会となる」という人権への理解がさらに深まっていくよう、学習を進めていきたい。